

大腸内視鏡検査説明書

平成 年 月 日

医療法人社団樹仁会 森 医院

説明医師 _____ 印

1. 肛門から内視鏡を挿入して大腸を調べる検査です。必要な場合は、同時に粘膜組織の一部の採取やポリープ切除（内視鏡的切除術）などの治療もおこないます。
2. 検査を行うための下剤などの服用や食事の制限があります。便が残っている場合などは、浣腸や洗腸を追加させていただくことがあります。下剤内服に伴う腸閉塞や腸穿孔（頻度 0.00001%以下）などが生じる場合があります。下剤内服中に腹痛や嘔吐などの症状が発生した場合は、直ちに下剤内服を中止とし当院緊急連絡先電話までご連絡ください。症状によっては入院治療になることもありますので、そういう場合は、すぐに、来院していただく必要があります。
3. 前処置に用いる薬剤や検査の苦痛を和らげるための鎮静剤による影響のために眠気やふらつきが残ることがあります。このため検査当日のお車の運転は危険ですとおやめください。万一、無理に運転して事故などをおこされても、当院では責任を負いかねます。鎮静剤などを注射した場合は検査終了後約 1 時間程度、当院で様子をみてから帰宅していただきます。また、なるべく同伴者と一緒に来院し、帰宅まで付き添ってもらうようにしてください。
4. 必要に応じて、安全な色素などを散布し精密検査をおこないます。良性・悪性などを診断するための病理検査などの目的で、粘膜組織の一部を採取し、細胞の検査をすることもあります。この場合、検査当日は激しい運動および刺激物（アルコール、香辛料など）の摂取を避けてください。
5. 血液が固まるのを防ぐ薬を服用中の方や血液が固まりにくい病気の方は、出血がとまらなくなる可能性がありますので、生検や治療が出来ない場合があります。そのため、事前に内服薬のご提示や病気についてのご説明をお願いします。
6. 検査による重篤な合併症として、出血や穿孔などが発生することがあります。この頻度は、日本全国で検査を受けた方の約 0.04%と報告されています。このような合併症が発生した場合には、再検査や入院も考慮した治療を適切に行う必要があります。検査が終了したあとで万一下血や持続する腹痛などがあれば、当院担当医までにご連絡ください。
7. ポリープなどがあった場合、大きさや形によっては内視鏡的に切除（内視鏡的切除術）できる場合があります。この治療をした場合は、約 10 日間は出血や穿孔などの合併症を生じる可能性がありますので、切除当日は食事を制限するとともに、約 10 日間は旅行、スポーツ、飲酒をやめていただく必要があります。万一、切除後に下血や腹痛を生じた場合は来院していただき、輸血や手術が必要な場合は、他院入院してもらう場合がありますので、当院までご連絡ください。
8. 検査当日の状況により、検査予約時間通りに開始・終了できるとは限らないことをあらかじめご了承ください。

緊急連絡先電話 _____ 担当医 _____ まで

.....

大腸内視鏡検査同意書

私は大腸内視鏡検査にあたり担当医師より、上記の検査内容、方法、必要性について十分な説明を受け了解したので、検査の実施をお願いします。

平成 年 月 日

受診者署名 _____ 印
(印鑑がない場合は自署)

代理人署名 _____ 印

緊急連絡先（電話番号） _____